

令和 6 年度事業計画書

公益財団法人 北九州活性化協議会

目 次

（概況）	 P 1
------	-----------

（事業計画）

I 公益目的事業 1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と
活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与する事業

1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 （もったいない総研事業）	 P 2
--------------------------------------	-----------

2 産業人材を育成する事業 （北九州地域産業人材育成フォーラム事業） ※別紙 1 参照	 P 2
---	-----------

3 次世代を担う人材を育成する事業 （北九州の企業人による小学校応援団事業） ※別紙 2 参照	 P 3
---	-----------

4 都市格（文化力・教育力）を向上する事業 （1000人の夢寄金事業）	 P 3
--	-----------

5 まちづくり推進事業	 P 5
-------------	-----------

II 法人運営事業	 P 6
-----------	-----------

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の
公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を
図る。

（概況）

令和6年度の九州・沖縄経済は新型コロナウイルス禍から本格的に回復し、消費はより上向くと見込まれている。熊本では台湾積体回路製造（TSMC）の工場稼働が近づき、半導体関連を中心に企業の設備投資も活発です。一方で物価高や人手不足が深刻さを増しており、金利上昇が経済に与える影響も見逃せない状況です。

その様な中、KPECでは北九州イノベーションギャラリーの指定管理事業を失った事を端に発し、令和3年度から続く最大の課題である財政問題（約900万円の赤字）に引き続き、取り組みました。その結果、令和5年度は赤字が解消できる見込みとなった。

令和6年度は公益事業とのバランスを考慮しながら、既存事業の改善と新規事業の着手を計画した。

令和6年度の事業について

継続事業

- ①“もったいない”を未来に引き継ぐ「もったいない総研事業」
- ②インターンシップを中心とした「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」
- ③北九州の企業人による小学校応援団事業
- ④都市格（教育力・文化力）の向上を図る「1000人の夢寄金事業」
- ⑤まちづくり推進事業

新規施策・事業

- ⑤北九州地域活性化の推進に向けた「調査事業」

その他

「北九州市風力発電人材育成連絡会」の運営補助業務について。

令和5年度に受託した同事業を令和6年度も北九州市が実施する場合は、積極的に受託を目指す。

尚、本事業は受託できるかが不確実なため、令和6年度の予算には組み入れていない。

また、法人運営事業については、「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理するとともに当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図ってまいります。

令和6年度の事業計画は以下のとおり。

事業計画

I 公益目的事業1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業。

1. “もったいない”を未来に引き継ぐ事業（もったいない総研事業）【継続】

“もったいない”の概念を踏まえたシビックプライド（まちへの愛着・誇り）の醸成の企画・研究を行い、当協議会が提唱する“もったいない”の普及を図ることを目的とした事業。

1) 資源循環型社会づくり施策の一環とした商品の企画・開発・普及を推進する。【継続】

(1) 『北九州紙 えこっパー』の普及によるSDGsの推進 【継続】

① 『北九州紙 えこっパー』の普及促進 【継続】

平成13年（2001年）に販売を開始した『北九州紙 えこっパー』（古紙・牛乳パックを再利用したリサイクルトイレットペーパー）の認知向上及び普及促進を図り、地域循環サイクルの実現を通してSDGsを推進する。

② 『北九州紙 えこっパー』による環境教育の実施 【継続】

全国牛乳容器環境協議会と連携して、牛乳パックリサイクル製品である『北九州紙 えこっパー』の企画意図と製作過程の環境教育教材を提供する。

2) 市民が評価する北九州市の産業、文化、社会、生活等の中にある“価値あるもの”を「北九州市民財産（仮称）」として、“もったいない”の概念を踏まえた新しいシビックプライドとして捉え、これを体系的整理し街づくりに活用していく、「もったいない総研事業」の企画、研究および普及を推進する。

(1) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業の開発 【継続】【変更】

① 『北九州市立旧百三十銀行ギャラリー』の指定管理事業の運営及び近現代建築物の保存・活用の研究実施

「北九州市の文化財を守る会」と協働で旧百三十銀行ギャラリー（北九州市指定有形文化財）の指定管理運営事業を円滑に実施するとともに、本事業を通じて、近現代建造物の保存・活用（ファシリティマネジメント）の研究と北九州地域の近現代建築物の紹介（パネル写真展・歴史講演会等開催）および保存活動の推進を行う。

尚、本事業は令和5年度を最後にKPECは指定管理者の更新を行わない予定であったが、北九州市より更新を1年延期の要望があり、令和6年度は継続する。

2. 産業人材を育成する事業 【継続】

北九州地域の中堅・中小企業の経営力強化と雇用環境の改善を図るとともに産学官協働による産業人材の育成を目的とした事業。

※事業計画の具体的内容は、

「令和6年度北九州地域産業人材育成フォーラム 事業計画書」（別紙1）の通り

3. 次世代を担う人材を育成する事業（北九州の企業人による小学校応援団事業）【継続】

北九州市内の企業や経済団体等が結束して、北九州の将来を担う子どもたち(小学生)の健全なる育成と教職員および保護者に対する支援を目的とした事業。

※事業計画の具体的内容は、

「令和6年度北九州の企業人による小学校応援団 事業計画書」（別紙2）の通り

4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業（1000人の夢寄付事業）【継続】

民間の力を結集し、教育や文化的活動を行う法人・個人・団体に対して活動費用を助成し、北九州市の未来のために、このまちの教育力・文化を共に育み、真に魅力あるまちづくりを進めて行くことを目的とした「1000人の夢寄付」事業。

1) 「1000人の夢寄付」寄付金募金事業【継続】

北九州市民が行う、もしくは、北九州市で行われる教育・文化活動に対して支援を行う助成金の原資となる寄付金を、夢寄付の趣旨に賛同する個人・法人・団体から広く募集するとともに、寄付金の募集により夢寄付の実在を広く周知し、北九州市の都市格向上の推進と寄付文化の醸成を図る。

(1) 基本寄付募集事業【継続】

基本寄付事業として、1年に1回、寄付の募集を行う。（募集時期：6月）

[寄付金額]

個人・団体：1口 3,000円／年

法人：1口 10,000円／年

(2) プロジェクト寄付募集事業【継続】

寄付金を募集するためのプロジェクトを企画・開催し、参加者からの寄付金およびプロジェクトの売上の一部等を寄付金として募集する。

① ボランティアグループ「シマウマ組」との連携強化【継続】

“クラフトチクチク”の企画・運営より誕生した、『縞縞のシマウマ』と『時々ヨコシマなカバ』のぬいぐるみを制作するボランティアグループ「シマウマ組」との連携を強化する。

・チャリティーバザー“クラフトチクチク de マルシェ”の売上金の寄付

・『縞縞のシマウマ』『時々ヨコシマなカバ』の売上金の寄付

② 「北九州紙・えこっパー」寄付金【継続】

大分製紙(株)様からの「北九州紙・えこっパー」の売上の寄付（1円／パック＋奨励金）

コロナ禍から中止していたチャリティーゴルフについては、令和6年度より廃止する。

(3) その他の寄付募集事業【継続】

その他の寄付募集活動として、遺贈や香典返し、特定寄付金（寄付される方があらかじめ用途等の条件を指定してご寄付いただく寄付金）の募集を随時行う。

2) 「1000 人の夢寄金」助成事業 【継続】

北九州市民が行う、もしくは北九州市で行われる教育・文化活動に対する活動費用の支援を行うことにより、このまちの都市格（教育力・文化力）の向上を図り、北九州市の活性化に寄与する。

(1) 助成事業の募集 【継続】

北九州市の文化振興および教育関係の各種団体等との連携を図り、助成対象事業の発掘を促進するとともに、公式ホームページ・Facebook、メールマガジン及び各種情報誌等へ募集の掲載を行い、申請者を広く募集する。（募集時期：7月）

(2) 助成先の選定 【継続】

① 「1000 人の夢寄金」審査委員会による審査

「1000 人の夢寄金」審査委員会を開催し、「助成金審査基準」に基づき、公平、公正、公明性を保ちながらも、独自性のある助成先の選定を行う。

Web 投票の実施 【終了】

助成審査の見える化と事前の公開投票による一般的な評価を確認し、審査委員会での参考資料とするため Web 投票を継続実施していたが、相当数の組織票があり、本来の目的を達成できないことが判った。よって、本施策は終了する。

(3) 助成金の支給 【継続】

対象事業の終了または事業年度終了時に事業完了報告書の提出を義務付け、実施状況及び効果の確認を行い、助成金を支給する。また、各対象事業実施時に担当者が極力現場に出向き実際に実施状況を確認する。

3) 広報・プロモーション事業の実施 【継続】

「1000 人の夢寄金」の周知を図り、寄付金の拡充と事業運営への志ある市民参加を促進すると共に、助成対象関係者の認知度向上のための広報等を実施する。

(1) ホームページ、Facebook、メールマガジンによるタイムリーな情報発信 【継続】

ホームページ、Facebook、メールマガジンにより、寄付金募集、助成事業募集、助成事業、寄付者情報、その他活動情報等をタイムリーに発信する。

(2) 「1000 人の夢寄金」事業報告書の発行と活用 【継続】

年度事業報告書を作成し、寄付者に対する事業実施状況の報告と助成事業説明資料として助成先の活動の周知を図ると共に、新たな寄付者、助成先の開拓のツールとして活用する。（年1回、6月発行）

4) 事業運営費の拠出 【継続】

従来は KPEC から拠出していた 1000 人の夢寄金を運営に必要な経費を、令和 6 年度も繰越金より拠出する。

5. まちづくり推進事業【継続】

北九州市域の新しい課題、ニーズを適正に把握することにより、産・学・官・民の連携軸として北九州市域の活性化と持続的発展を図る事を目的とした事業。

1) 産学官民連携による地域活性化事業の推進【継続】

(1) 新規事業の企画開発のための調査・研究の実施【継続】

KPECの新しいまちづくり事業の方向性と企画を検討するための調査・研究を行う。

- ① 北九州市域におけるものづくり産業の土壌を生かしたスタートアップ企業を育成するために、「地域が必要としているモノコトは何か」、必要な施策の明確化及び条件等の調査事業を行う。

(2) 地域づくりネットワークの構築【継続】

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業を推進する。

① 北九州地域経済団体連携フォーラムの運営【継続】

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム」(事務局KPEC)を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

i) 共同プロモーション事業の実施【継続】

各団体の保有する各種情報及び事業について、共同広報や参画支援等の事業運営にかかる協力、支援を行う。

② 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画【継続】

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行う。

(3) まちづくり事業の支援、協働の実施【継続】

① 北九州ミュージックプロムナードの支援【継続】

平成8年にKPECの提唱で始まった北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援する。

② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画【継続】

ビジャーズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行う。

2) まちの活性化に関する情報発信事業【継続】

(1) 情報受発信の強化【継続】

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えるための情報発信事業を推進する。

① KPECニュースの発行【継続】

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行する。(発行回数：年1回(6月)・発行部数：1000部)

② ホームページの運営【継続】

KPEC事業活動情報のタイムリーな発信事業運営の環境を周知するため、KPECホームページの充実、運営を行う。

③ メール送信システムの整備【継続】

KPECの円滑な事業運営と会員企業等への情報提供のために、関連企業及び連携組織等のメーリングリストを整備し地域ネットワークを構築する。

II 法人運営事業【継続】

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図る

1. 事業運営体制の検討【継続】

1) KPECの事業運営・管理体制の強化【継続】

事業運営フレームの改廃、改善及びコスト削減を図ると共に、新しい収入財源の開拓・研究等を進め、経営体質の改善・強化を進める。

(1) 経営基盤の強化に資する事業開発・開拓【継続予定】

R5年度に北九州市より受託した「北九州市風力発電人材育成連絡会」の運営補助業務が実施される場合は、積極的に事業受託を目指す。

(2) 寄付金事業の事業化【継続】

公益財団法人の組織的環境を活かしたKPEC寄付金事業の確立等の研究を実施する。

(3) 基本財産の運用【継続】

公益法人の資産運用に関する法規制を遵守した上で、令和4年度より基本財産の運用額を増額した。結果、令和5年度の利金収入は昨対比で約360万円の増額となった。

令和6年度の利金収入の総額は令和5年度とほぼ同額の約438万円を予定。

2) 会員募集と会員サービスの向上等

(1) 会員募集の強化【継続】

令和4年にGoogle Formsを利用して新規で賛助会員にお申込みを頂き易い仕組みを構築した。令和5年度は、この仕組みを活用して約30名の新規会員を獲得した。

令和6年度も引き続き募集の強化を行う。

(2) 会員サービスの向上【継続】

会員管理体制の整備により、KPECが実施または支援する各種地域活性化事業への案内、及び行政や他団体からの講演会開催等の情報提供の徹底を図り、会員との協働による地域活性化事業の推進体制を構築する。

(3) コスト削減の取組【継続】

令和5年度は、令和3年比で190万円程度を達成した。

令和6年度は削減できる対象が無く、数値目標は立てないがコスト管理を徹底する。

2. 会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催する。

- (1) 定時理事会の開催 (5月、2月)
- (2) 定時評議員会の開催 (6月、3月)
- (3) 執行役員会議の開催 (月 1 回)

北九州地域産業人材育成フォーラム
令和 6 年度事業計画書



I 概 況

これまで「産業人材育成フォーラム」事業は；

- ① 高度人材育成を目的とした、「研修型」、「実践型」等各種インターンシップの実施
- ② 中堅・中小企業の中核技術者、経営人材の育成を目的とした、地域大学の大学院を活用した各種プログラムの実施
- ③ 産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的とした、ものづくりに関する教育機会づくりや早期工業教育の開発・実施と、国や北九州市が推進するインターンシップ、リカレント教育、まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生インターンシップの推進等と連動した各種事業を進めてきた。

令和 5 年度は、コロナ禍からの経済の回復もはっきりと表れ始め、社会経済活動も活発に動き始めた 1 年であり、感染防止対策を行いながら各事業を実施。特に 1 年生インターンシップでは企業から「1 年生と思えない高いレベルで課題に取り組めた学生も散見された」と好評を得た。インターンシップ参加学生も、自らが考え着眼点を見つけ、課題形成を行い、解決策を生み出すプロセスを体験したことにより、産業人材として自身の能力の飛躍に繋がるなどインターンシップの本来の成果を出せた。

しかしながら、新型コロナの影響はまだ残っており、一部でインターンシップの中止や変更、社会人プログラムの準備停滞が生じ、皆様の期待に十分に沿えることができなかった。

こうした環境を踏まえ、令和 6 年度の産業人材育成フォーラムは以下の事業を実施する。

1. 高度人材育成プログラムの企画、運営 **【継続】**

- 1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施
- 2) 連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施
- 3) 地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

2. 社会人育成プログラム事業の支援 **【継続】**

- 1) 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けた MBA 活用プログラムの支援
- 2) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営 **【継続】**

- 1) 「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備 **【継続】**

- 1) フォーラム協働企業の有志会員化の推進
- 2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施

II. 事業計画の内容

1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ」の中核事業である「研修型(短期)インターンシップ」に関しては、「課題」を切り口に、学生が考え、着眼点を見つけ、課題形成を行い、自らが解決策を生み出すプロセスを体験できる実施内容へ、企業のレベルを向上しつつ、「実践型(長期)インターンシップ」の環境整備と拡充を強化する。また、ニーズがでてきた、博士課程インターンシップの環境づくり、企画、開発を行う。

1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

(1) 研修型(短期)インターンシップ事業の拡充、実施 **【継続】**

大学から職場・社会への円滑な移行のための社会人基礎力の修得と、地元中堅・中小企業の認知向上による就職機会の創出等を目的に、連携校と協働で「研修型(短期)インターンシップ」事業を実施する。確実なマッチングに加え、内容の「課題化」を目指して活動を実施する。

《研修型(短期)インターンシップの実績推移》

	2019 年度		2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	登録	登録	実施	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施
学校(校)	6	5	5	4	5	4	5	4	5	4
企業(社)	86	39	62	21	59	34	63	29	71	23
学生(人)	85	76	41	36	55	49	47	47	50	50

① インターンシップの対象拡大と柔軟な対応 **【継続】**

域外工学系大学生への北九州地域企業の認知度を向上し、留学生へも情報がとりやすい環境を整え更なるとインターンシップの拡大を図る。

また、学生がインターンシップを利用しやすい環境を創るため、インターンシップ受入時期や期間等の柔軟な対応を引き続き行う。

② キャリアアップ型インターンシッププログラムの開発と環境づくりの推進 **【継続】**

連携校における学生のキャリア形成と就職指導とを有機的に組み合わせ、年次に合わせて段階的にステップアップする『キャリアアップ型インターンシッププログラム』の開発と環境づくりを行う。

③ 文理融合を推進する為、文系学生の理系インターンシップ参加を推進 **【継続】**

文系学生が理系インターンシップに参加、体験する機会を提供し、学生の選択肢を拡大、また、今後不足すると予測されている IT 系技術者への可能性などを探りつつ、参加に向けた環境づくりを行う。

(2) 実践型(長期)インターンシップ事業の環境整備と拡充 **【継続】**

将来の産業を担う人材育成のため、企業、学校、学生に実践型(長期)インターンシップの更なる理解を促し、産学協働による環境整備と拡充を行う。

《実践型（長期）インターンシップ実績推移》

年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
学校(校)	2	1	1	1
企業(社)	4	4	5	4
学生(人)	6	7	5	5

① 実践型(長期)インターンシップ参加者増加のための施策の実施 【継続】

インターンシップ受入企業の企業情報や研修内容および実際に体験した学生の声など、学生に参加を促す情報をタイムリーに提供し、実施企業および参加学生の拡大を図る。

② 北九州高専の実践型(長期)インターンシップコースの拡充支援 【継続】

北九州高専の長期インターンシップ（本科、専攻科）の参加企業拡充に向けての支援を行う。

《北九州高専長期インターンシップ実績推移》 ※フォーラム協働企業のみ

	2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	専攻科	本 科	専攻科	本 科	専攻科	本科
企業(社)	3	1	6	0	3	3
学生(人)	5	1	6	0	4	3

(3) 低学年に対応したインターンシップの支援 【継続】

北九州市が力を入れている SDG'S や再生可能エネルギーにつながる産業人財育成に向けて、北九州市立大学の「未来地域産業インターンシップ」など、長期に向けたキャリアアップ型インターンシップに取り組む 1、2 年生を対象にしたインターンシップの受入企業拡充支援を行う。

《北九大 1 年 インターンシップ実績推移》

年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
企業(社)	7	9	7	7
学生(人)	22	12	13	12

注) 2022 年度特記：新型コロナウイルス感染者確認により、1 社（2 名）途中中止

2) 連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施

「地域連携型インターンシップ」事業の運営目的と活用意義を学生及び学内関係者に周知し、インターンシップ参加を促進するための各種事業の企画、開発、運営を行う。

(1) 企業研究および交流会の場の提供 【継続】

学生、大学教員・スタッフ等の関係者の地元企業の認知促進を目的として、インターンシップ以外でも北九州地域の企業と交流出来る機会を設ける。
実施方法については、企業や学校などの要望に応じて対応する。

(2) 「北九州地域産業人材育成フォーラム」ホームページの拡充 【継続】

連携校におけるインターンシップ参加、地元企業情報の周知促進ツールとして、北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップホームページの充実を行う。

《コンテンツ》

- ・企業情報の更新および動画の配信
- ・インターンシップ体験談（動画）の掲載
- ・インターンシップの魅力（動画）の掲載

(3) 連携校における各種事業プロモーションの実施環境の整備 【継続】

連携校において実施する「インターンシップガイダンス」のプロモーションや広報チラシの配布等の学内プロモーションについて、学生の行動パターンに合わせたプロモーション方法の企画検討・支援を行う。

3) 地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

(1) 地域連携型インターンシップ運営のためのコーディネート機能の強化 【継続】

北九州テクノサポート（K T S）のインターンシップのコーディネート機能を強化し、合わせて支援を行う。

(2) インターンシップ事業の円滑運営のための各種アンケート・調査の実施 【継続】

インターンシップに関連する各種アンケート・調査を実施、分析し、今後のインターンシップ事業運営に活用する。

《インターンシップ関係調査》

- ・地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学: I S 実施学生)
- ・地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査(I S 実施全企業)
- ・連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学、全学部)

《就職状況関係調査》

- ・連携大学・高専における地元就職状況調査（全大学・全学部全学科別）
- ・地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査（全大学・全学部）

(3) U/I ターンとインターンシップ関係性の調査事業 【継続】

新卒で就職の3年以内の転職率が30%で推移する中、学生時代にインターンシップで関係性を持った企業を転職先候補として興味関心があるのかを調査する。

調査の結果、新しい取り組みに展開できる可能性が見いだせれば、仕組み作り、試験運用へと展開し、フォーラム協働企業へ貢献できる環境作りを推進する。

2. 社会人育成プログラム事業の支援

地域企業の中核専門人材の育成と経営管理者の育成を目的として、北九州市立大学大学院マネジメント研究科（以下「K 2 B S」）と連携した、経営者・管理者育成のための事業（M B A 活用プログラム）の支援および九工大大学院及び北九大大国際環境工学部大学院の制度の活用促進のための支援を行う。

1) 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたMBA活用プログラムの支援

K2BSの職業人の養成機能を活用したMBA活用プログラムの企画・実施により、北九州地域の中堅・中小企業の経営者・経営管理人材の育成（リカレント教育・実践的マネジメントスキルの向上）を行い、地域企業の経営課題解決および経営力強化の支援を行うとともに、K2BSと地域との連携を強化する。

(1) 中堅・中小企業向け「MBAサテライトフォーラム」の開催・支援【継続】

K2BSによる公開経営研究講座の企画・実施により、北九州地域の中堅・中小企業の経営者・経営管理人材の育成支援（リカレント教育・実践的マネジメントスキルの向上）とK2BSの地域プロモーションを促進する。

(2) 経営管理者のための「実践経営学講座・車座塾」の支援【継続】

ケースメソッドによる実践的経営学講座(車座塾)の企画・実施により、北九州地域の中堅・中小企業の課題解決・経営革新および若手経営者（リーダー）育成の支援を行う。

2) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

中堅・中小企業の中核専門技術者の技術力強化とスキル向上に有効な教育プログラムの活用促進のための支援を実施する。

(1) 北九州ドクターチャレンジプログラムの活用促進【継続】

北九州地域企業の中核技術人材の専門技術力の向上と研究開発の促進を図るため九工大大学院及び北九大国際環境工学部大学院の「長期履修制度」のフォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施する。

(2) 北九州テクニカルカレッジプログラムの活用促進【継続】

九工大の「学術コンサルティング制度」の活用促進を進めるため、フォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施する。

(3) 経営管理者向け「企業の強み（魅力）認識講座」の開催【継続】

北九州地域の中堅・中小企業を対象に、自社の強み認識のための講座形式勉強会の企画・実施により、参加企業の事業価値を高め、長期的な企業成長戦略の在り方を構築する。

3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営

産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的として、「北九州企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくりを行う。

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり【継続】

「北九州の企業人による小学校応援団」の出前授業について、フォーラム協働企業（ものづくり企業）を対象に「ものづくり」をテーマとした出前授業の募集を行い、青少年育成プログラムが目指す早期工学教育の環境づくりを多面的に支援する。

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

フォーラム事業の拡充と持続的発展のための地域システム化を図るため、協働企業の会員化による事業の運営基盤の強化、事業運営の ICT 化を進めると共に、地域におけるプロモーションを推進する。

1) フォーラム協働企業の有志会員化の推進【継続】

フォーラム協働企業をベースにして、フォーラム事業運営の基盤企業となる有志会員企業の募集、登録を促進する。

2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施【継続】

産業人材育成フォーラムの連携校、学生及び地域企業に対して事業を周知するために、フォーラム事業を協働する企業経営・管理者と連携校の教員等関係者との交流促進のため「顔の見える産学交流会」（産学交流会等）については、形態を、状況に合わせて、企業と学生のつながりを進める。

連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップホームページの拡充を行う。さらに、行政や連携校、企業、団体などのホームページへの告知、リンクなど行い、情報をより広く、より多くの方の目に留まるよう、連携を進める。

令和 6 年度 北九州地域産業人材育成フォーラム 予算

(円)				
項 目	2023年度 予算	2024年度 予算	内 訳	増減
1)負担金	7,600,000	7,600,000		0
①北九州市	6,600,000	6,600,000	雇用政策課 6600000	0
②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000		0
2)会費	2,170,000	2,140,000		▲ 30,000
①企業会員	1,170,000	1,140,000	企業負担金 @30,000×38社	▲ 30,000
②大学・高専	1,000,000	1,000,000	大学等会費(@300,000×3校.@100,000×1校)	0
③交流会	0			0
3)雑収入	0	0		0
①出展料等	0	0		0
②その他	0	0		0
③預金利息	0	0		0
4)前年度繰越金	800,000	500,000		▲ 300,000
【収入合計】	10,570,000	10,240,000		▲ 330,000
項 目	2023年度 予算	2024年度 予算	内 訳	増減
1)人件費	0	0		0
①事業担当人件費	0	0		0
②臨時的雇用的人件費	0	0		0
2)謝金	215,200	215,200		0
①専門家謝金	215,200	215,200	研修会講演・準備作業(4回)	0
3)旅費	435,000	490,000		55,000
①旅費等	150,000	150,000	(主に近距離)	0
近距離旅費				0
遠距離旅費				0
タクシー利用料				0
②専門家招聘旅費	285,000	340,000		55,000
4)委託料	8,570,000	8,399,000		▲ 171,000
①KTS業務委託	3,000,000	2,829,000	KTS企業開拓・実践型ISP開拓コーディネート業務委託	▲ 171,000
②KPEC業務委託	4,670,000	4,670,000	KPEC事業担当事務職員及び管理的人件費一部負担	0
③その他業務委託	900,000	900,000	HP(管理費220)その他委託(U・ターン事業300、企業向けセミナー380)	0
5)その他経費	1,349,800	1,135,800		▲ 214,000
①会場借上げ料	70,000	60,000	セミナー・会議等	▲ 10,000
②印刷費	350,000	250,000	ポスター・パンフレット・チラシ及び配布資料	▲ 100,000
③通信運搬費	35,000	35,000	電話料・サーバー利用料、各種調査票、リフレット郵送料	0
④事務消耗品費	132,916	59,916	事務用消耗品費 等	▲ 73,000
⑤会議費	56,000	25,000	会議時飲み物代 等	▲ 31,000
⑥交流会費	0	0	事業関係交流会経費	0
⑦使用料及び賃借料	655,884	655,884	各種機器使用料、事務局関係諸費他	0
⑧参加補助費	0	0		0
⑨雑費	50,000	50,000	振込手数料、その他雑費	0
6)予備費	0	0		0
【支出合計】	10,570,000	10,240,000		▲ 330,000

北九州の企業人による小学校応援団

令和 6 年度 事業計画書

I 目標

新型コロナウイルスも収束傾向にあり、また小学校応援団の学校現場での評価の高まりや体験学習へのニーズの高まりもあって、令和5年度は出前授業の申込、実施ともに発足以来過去最高の件数となった。

また地元企業が一体となって子どもたちの教育を支える本取り組みは、国の機関や他都市からも高い評価を受けるまで発展しており、令和6年度も教育現場のニーズにきめ細やかに対応できる体制をさらに強化し、本事業を遂行していく。

また、本事業が小学校応援団に参画する企業（468社、団体）と協同し、地域の活性化にも貢献するような企画やSNS等を活用した広報活動を推進していく。

II 支援事業の推進

企業等の協力を得て、親学推進プロジェクト、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施する。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境プロジェクトを実施する。

1. 親学推進プロジェクト

PTA参加の促進、企業従業員を対象にした親学推進について、普及に向けた具体策を図ると共に、PTA活動支援についても継続実施する。

1) PTAへの親（社員）のPTA総会など各種事業への参加促進

校長会・PTA協議会・小学校応援団の連盟で小学校応援団参加協力企業に対して、PTA総会や各種事業の案内をするなどして、参加促進を図る。

2) 参加協力企業における親学推進

参加協力企業の従業員を対象に、小学校の現況や学校との関わり方等の理解促進を目的とした親学推進事業（出前説明会）について、必要性などについて引き続き調査を行う。

2. 講師派遣プロジェクト

児童を対象とする出前授業、教諭や管理職の研修会への講師派遣等についての環境づくりと支援を行う。

1) 出前授業・研修の継続実施

企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施する。

2) 出前授業・研修の業務円滑化の推進

(1) 利用方法の周知徹底

講師企業ごとに、事前の準備及び当日のやり方などが異なるため、出前授業実施校が利用方法の把握が難しい場合がある。これらの課題を解消するために、事前・当日の利用方法について、申し込み受け付け時に小学校へ再度通知を行うなど、きめ細やかな対応を徹底する。

(2) ガイドブックの制作と配布

出前授業のテーマ一覧や授業内容及び申込み方法などわかりやすく紹介する「ガイドブック」の制作と配布を継続して行う。また、講師企業への理解度を上げることが、小学校にとって安心して出前授業利用できることに繋がるため、講師企業紹介を企業と相談しながら盛り込む。

さらに、小学校からニーズの高いSDGsテーマやリモート授業について、現場の先生にわかりやすく周知する。

3) 学校現場のニーズに対応した出前授業の環境整備

企業からの出前授業の登録に加え、小学校側の希望テーマに対応した出前授業の環境づくりを行い、ニーズに対応した出前授業の充実を図る。毎年4月に実施している小学校へのアンケート調査をもとに、小学校からのニーズの高い新規テーマの開拓を検討する。

(1) 小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマの継続

平成30年度より試験的に実施している、小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマへ対応する出前授業の実施について、協力企業等の環境を調査し、実施体制の構築を図る。

(2) 多様なニーズへの対応

小学校のニーズが多様化しているため、小学校に対しニーズ調査を行い、調査結果をもとにニーズの多いテーマについては固定テーマの設置が可能となるように、講師企業の開拓に努める。

3. 社会体験プロジェクト

児童の社会体験学習の支援・協力や、教諭や学校管理職の研修の受け入れについて、小学校の要請に対応した環境調整と支援事業を行う。

4. 環境づくりプロジェクト

小学校応援団事業の円滑な運営環境を構築するため、市教委等教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進を図る。

1) 小学校長との意見交換会の開催

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要であるため、必要に応じて小学校長との意見交換会を開催する。

5. 参加企業の拡大と活性化

小学校応援団に参加する468の企業（団体）の活性化につながる事業を検討する。具体的には参加企業が地元への社会貢献をPRできるようSNS等を活用した広報体制の充実を図るとともに、企業側の人材育成、出前授業を通じたOJTのメリットなどを周知していく。また参加企業のさらなる拡大についても検討を行う。

- ・参加企業にアンケートを実施し、ヒアリングを行う。
- ・企画委員会において、参加企業拡大と活性化に向けた実施プロジェクトの検討を行う。

6. 広報の充実化

小学校応援団事業は、北九州地域の企業が協働して、出前授業などを通じて、小学校支援を行う全国的にも珍しく取り組みである。また、文科省が掲げる学校を核とした地域の創生を目指す「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けた具体的な取り組みであり、地域協働の体制づくりが求められる。関係者のみならず、地域に周知する必要があるため、以下の項目について重点的に実施する。

1) 小学校関係者の認知向上と活用促進のための広報の実施

教員に対して小学校応援団の主旨及び内容、利用方法などの説明を実施し、事業の周知を図る。

2) 地域企業等の認知向上と協力環境の構築のための広報の実施

パンフレットの配布やホームページによる事業紹介を積極的に実施し、企業への周知を図る。

SNS等を活用して、参加企業の社会貢献を広く周知していく。

3) 保護者や地域コミュニティ等の理解と協力環境の醸成のための広報の実施

小学校応援団のホームページを更新し、地域コミュニティ等における小学校応援団事業の周知を図る。また、適宜、応援団の活動状況を報道機関に情報提供する。

Ⅲ 支援体制の充実

1. 学校及び講師企業の支援体制の構築

平成26年度に事務局と学校を繋ぐ役割としてコーディネータを設置し、本事業の広報等を担ってきた。その成果もあり全小学校に本事業を周知することができ、役割は果たせたものとする。今後は、新たに学校と講師企業を中心に支援する体制を強化していく。

2. 参加協力企業等の拡大

全校（127校）体制に対応した出前授業の実施環境の構築のため、市内の関係機関等の協力を頂きながら参加協力企業の拡充を行う。

Ⅳ 三者会議の開催

北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、当応援団、北九州市教育委員会及び(公財)北九州活性化協議会との三者調整会議を昨年度に引き続き開催し、支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整を行う等、事業の円滑な推進を図る。

北九州の企業人による小学校応援団 令和6年度予算

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

収入

単位：千円

項目	予算額	説明	参考（令和5年度予算額）
負担金	7,500	<負担金拠出額> 北九州市 5,500 北九州活性化協議会 2,000	<負担金拠出額> 北九州市 5,500 北九州活性化協議会 2,000
計	7,500		7,500

支出

項目	予算額	説明	参考（令和5年度予算額）
支援事業費	810	講師謝金、出前授業ガイドブック	810
講師企業及び学校支援業務費	700	費用弁償等	700
広報・プロモーション推進費	580	パンフレット作成等広報費、ホームページ・システムの運用、充実等	580
人件費	4,440	事務局人件費	4,440
事務局経費	970	会議費、交通費、消耗品費、通信運搬費、事務室等使用経費等	970
計	7,500		7,500